一気に逆転する日常物語

マーボー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
一気に逆転する日常物語

【Ｎコード】
Ｎ６３０８Ｚ

【作者名】
マーボー

【あらすじ】
両親は仕事の都合で海外に赴任し、妹と一緒に生活を始めた主人公。兄妹仲良く力を合わせた生活も気がつけば一年が経過していた。順調に日々を過ごし、主人公は高校二年生に進級。妹の琴美も主人公と同じ高校へと進学が決まり、充実した毎日を過ごしていた。しかし、そんな二人の生活はある出来事がきっかけで崩壊してしまう。二人の生活はどうなるのか？　はたまた幸せな暮らしを崩壊させるほどの出来事とは？　ブラコンな妹とそれに苦労する主人公の日常物語！

第一話：始まりはまずプロローグから（前書き）

皆様お久しぶりです。
今回は新規連載でもしようかなぁといった甘い考えと、自分の趣味に突っ走り好きに書きたいという欲望をぶちまけた作品となっています。
更新は不定期ですが、そこは読者様である皆様が温かい目で見守ってくださる事を信じていますよ！
まぁ正直本当に書きたい物を書いているだけなんで……どうなるんだろう？　きっとすぐに消した方がいいのかな？　段々と不安になってきましたが、それは皆様のお声によってという事で！

ではここで簡単な兄妹設定を紹介したいと思います。

主人公設定
名：神崎（かんざき）　京一（きょういち）
年齢：高校二年生
職業：学生
容姿：身長は平均よりも少し高め。髪は目にかかるか、かからないかぐらい。
性格：基本的に面倒見がいい。妹と二人で過ごしてきた約一年間は家事全般を担当してきた。
　しかしそんな彼もブラコン発動中の妹には容赦なくツッコム場面もあり、気苦労が絶えない。
特技：家事全般（一定水準以上はこなる技量あり）
一言：「嫌な言い方するな！　一瞬想像しちまったじゃねぇか！！」

妹
名：神崎（かんざき）　琴美（ことみ）

年齢：高校一年生になります。
職業：学生
容姿：背はわりと小さめ。周りの女性と比べても比較的に小さいが、そこがまた可愛いと評判。
　髪型はサイドポニーで落ち着いた雰囲気を出しているが、性格は……。
性格：典型的な元気ッ娘。常にブラコンをオープンにしている。明るくノリがいいためマスコット的な存在。
特技：お兄ちゃんの事なら何でも分る（自称）
一言：「ある偉大な人が言ってた。シスコンは文化だ！　だから恥じゃないんだよ、お兄ちゃん！」

といった感じになっています。
まぁまたキャラは増えるので、改めてキャラ紹介の場を設けさせて頂きます。

では『一気に逆転する日常物語』、ゆっくりまったりとはじまります！

第一話：始まりはまずプロローグから

「夢じゃなかったのか……」

目を開けて、真っ先に飛び込んできたのは、見知らぬ天井。
いつもと違う光景が飛び込んできた事に一瞬の戸惑いが生まれるが、すぐに先日の記憶を呼び出し、そのすべてを解決させる。

「はぁ、俺には場違いな場所だよなぁ。……琴美もきっと驚いているだろうなぁ」

思い出すのは、今まで俺と二人だけで過ごしてきた一人の妹の顔。
そばにいるのが兄である俺だけだった為か、琴美は甘えん坊……いや、かなりのブラコンに育ってしまった。
え？　それは俺の責任だって？　んなわけない！

「いやでも、アイツだってもう１６歳。高校一年生だ」

昨日までは中学生だった琴美も、今日からは一歩大人の階段を上ったんだ。
兄離れした琴美の姿をきっと拝めるだろう。

「京一様、朝でございます。起きてくださいませ」

コンコンと控えめなノックと同時に、俺を起こす為の声が届いてくる。
これも前までの生活からは考えられない事で、『この家』に来てからの新しい出来事。

さっきも少しだけ漏らしたと思うが、前の家では琴美と俺の二人だけの暮らしだった。
両親は二人揃って海外で仕事のため赴任中。
普通なら俺達も一緒に海外に行くはずだったが、俺が高校に進学するにあたって、「もう京一にまかせて大丈夫よね？」と母さんの一声で日本に残る事に。
しかも、両親はオレが高校に上がる年の冬休みから既に海外に赴任。
最初の二人だけで過ごした正月は……うん。寂しかったなぁ……。

「京一様、京一様～？」

とそこで、俺の思案を遮るように、再び声が室内に響いてくる。

「はーい。起きてますよ～」

寝ている間に固まってしまった体を解す様に、伸びをしながら返事をする。
その声を聞いた、俺の事を起してくれた人は、朝食の有無を伝えると部屋の扉から離れる。

「さて、今日から新生活なんだし、張り切っていこうか！」

気分を一新、俺は新たな『この生活』を受け入れるために、まずは、朝食を食べに向かった。

第一話：始まりはまずプロローグから（後書き）

始まりました！

プロローグですが、まだまだ続きます。

しかも長いです。

では、次話もよろしくお願いします。

第二話その次もプロローグから（前書き）

続いて第二話の投稿です！

第二話その次もプロローグから

「あ、お早うございます、京一様。昨晩は眠れましたか？」

俺がリビング……いや、天井からシャンデリアが吊下がっている無駄に大きい室内に顔を出すと、さっき起しに来てくれた声の主が俺の事を向かいいれてくれた。

「お早うございます。眠れる事は眠れたんですけどね。起きた時は自分の部屋じゃなかった事に驚きましたよ」

「ふふっ。でも、慣れてくださいね？」

鈴がコロコロと転がるような甘い声に、俺の鼓動は緊張からか、速くなっていく。

彼女の名前は日下部（くさかべ）陽菜（ひな）。

歳は俺と同い年で高校二年生らしい。

綺麗なエメラルド色の髪を片方だけ可愛い花飾りで止めていて、明るい性格をしている我が家のメイドさんだ。

俺の祖父、神崎（かんざき）源二（げんじ）は世界でも有名な神崎ブランドの創設者。

商品は女性を対象とした服や下着などの衣服類。

そんな祖父の家に預けられた俺と妹の琴美。

あれ？　二人暮らしは？　と思うかもだけど……まぁこれに関しても色々あったんだ。

◇◆◇◆◇◆◇

【回想】

「琴美、そんなにくっついてくるなよ」
「え～？　いいじゃんいいじゃん！　私たちは兄妹なんだよ？」
「だからくっつくなって言っているんだ。そもそもここは人が往来する道なんだぞ」
「ふっふ～。いいんだよ～？　そんなに恥ずかしがらなくても。なんたって私たちは兄妹！　シスコンは胸を張っていい事なんだから！　だからこうやってくっついてたって平気！　むしろ当然なんだよ！」
「俺は平気じゃないし、当然でも何でもない。ついでに言うと俺はシスコンじゃない」

それでも俺の腕に引っ付いてくる琴美を無理やり引きはがしながら、俺たちは晩ご飯の食材を買いに商店街へと向かっていた。

「あ、その前に銀行に寄らないと……」
「今日はお母さん達から仕送りが来る日だもんね。今思えば、こうしてお兄ちゃんとラブラブな毎日を過ごせるのはお母さんとお父さんのおかげだよ！　もうこのまま帰ってこなくてもいいかも♪」
「お前最低だな。しかもラブラブな毎日って何だよ」

頭の中が若干……いや、かなり崩壊してしまっている妹に肩を落とす。
そんな俺の様子にも気がついていない我が妹は、

「はぅん！　お兄ちゃんお兄ちゃん！　私たちって今どんな風に見えているんだろうね！　恋人かな？　夫婦かな？　または援助交際

!?　私はお兄ちゃんとならそれでもいいよぉ！」
「……」
本当に頭が残念な妹だ。
だけど、こんなんでも俺の妹。
面倒は見てやらねば……。

「はいはい。無駄口はいいからさ。ちょっとお金を卸してくるまでここで待ってて」

季節は冬。
ヒューヒューと木枯らしが吹く寒空の下、俺は妹を銀行前に放置して一人だけ中に入っていく。
あ、中は暖房が効いてて暖かい。
外と違って暖かい室内は心が落ち着く。
あー今日はもうここにずっといようかなぁ。

「って、ちょっと待ったぁぁぁっっ！！！！」
「あ？　何だよ。銀行の中は静かにしないと駄目じゃないか。ほらみろ、周りが俺たちに注目している。すいませんね、ウチの妹が」
「え？　あ、ごめんなさい」

俺が謝っている態度に感化したのか、反省の色を示す琴美。
そうそう。俺がちゃんと琴美の面倒を見て教育をしていかないと、将来はお嫁のもらい手が本気でいなくなるからな。

「って、これも違うよ！　いやうるさかったのは本当にごめんなさいだけど、違うよ！」
琴美が俺の側にやってくると、顔を近づけながら小声で反論してく

る。

「お兄ちゃん、さっき銀行に入る前と今、私の面倒を見るって誓ったばかりじゃん！　それなのに何でいきなり私を寒空に放置！？」
「何当たり前のように人の心を読んでいるんだ。そんな不気味な人、俺は嫌だな」
「お兄ちゃん！　私もそう思うよ！　まったく、近頃の若い者は」

琴美が腕を組んで年寄りのように憤慨してみせる。
俺の言動に体裁を保とうとしているその様子に、心の中で「若い者って……お前だってそうだろ」とツッコミを入れ、早くお金を卸そうと、ＡＴＮに足を向けた、矢先だった。

「またもや待ってよ、お兄ちゃん！」
「いい加減なんだよお前は？」
「私はね、もらい手がいなくても困らないよ？　だってお兄ちゃんがいるからっ！！」
「今まさにその最有力候補である俺は消えたぞー」
「……あっ……」

さっき俺が言った、人の心を読む人は不気味という発言を忘れてしまったらしい琴美。
両手を上に上げ、ガッツポーズのまま、俺の言葉にその場で固まった。
俺は今度こそ琴美をその場に放置してお金を卸しにいく。

「はぁ。何でお金を卸すだけでこんなに体力を使うんだ……」

でもこれも、あの妹を毎日相手にしていると慣れてくるもので、受け流せているという事は少しは耐性が付いてきたのかもしれない。

「さて、いくら卸そうかなぁ……って、あれ？」
暗証番号を入力し、まずは残高をチェック。
だけども、そこに表記されていた数字は最後に卸した時とまったく変わっていなかった。
「お、おかしいな。母さん達、まだ振り込んでいないのかな？」
仕送りの日には必ず振り込んでいてくれる生活費。
けれど、まぁたまには一日ぐらいズレてしまう事もあるか。
それだけ仕事が詰まっていて、俺たちには申し訳ないと思いつつも、一生懸命に二人で仕事に取り組んでいるのかもしれない。
そう考えると、毎月毎月当たり前のように貰っていた生活費の大切さを改めて実感する。
（うん。先月分だってちょっとは残っているし、今日ぐらいは全然賄える）
晩ご飯分だけを卸し、俺は未だ固まっている琴美の元へ戻る。
「ほら。いつまでそうしているんだよ。早く買い物に行くぞ」
「お買い物？　ふふっ、デートの間違いでしょ？」
復活していないのか、テンションは下がったまま、だけども台詞はいつもの琴美。
「どれだけ器用なんだよお前は！？」
そんな妹を引きずりながら、俺たちはまた寒空の下、足を進めてい

く。

「ふふっ、お兄ちゃん。シスコンはね、文化なんだよ。恥じゃないんだよ」

「だからそれ怖いって！」

まぁ今はちょうど冬休みだし、弁当とかお金を掛けなければ平気なはずだ。

第二話その次もプロローグから（後書き）

プロローグはまだまだ続きます。

ええ、まだまだです！

それと、あとがきはプロローグが終わるまでは簡潔に済ませますね。

ではでは次回もよろしくお願いします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6308z/

一気に逆転する日常物語

2011年12月21日01時50分発行